

国旗は「十」 ごちそう共和国 十勝24JAで建国

2014年11月26日

十勝管内24JAは26日午前11時、帯広市内の北海道ホテルで記者会見を開き、今年度から始める統一ブランド展開について発表した。十勝を24州（JA）で構成の架空の国に見立て、「十勝ごちそう共和国」の建国を宣言。海外展開も意識した「Made in 十勝」の共通ロゴマークも披露し、今後、農産物などに使用していくとした。



「建国」の趣旨を話す有塚本部長（左）と山本勝博副本部長。左は共和国の「国旗」とロゴマーク

JA系統で扱う農畜産品はこれまで作物や地域ごとのブランドはあったが、十勝共通の戦略はなく、ブランド展開で十勝産の競争力強化を図る。

共和国の「国旗」として、大地を表す緑に、川や空を

表す青で「十」を描いたデザインも発表。「Made in 十勝」のロゴマークにも「国旗」のデザインをあしらった。

今後、既存の「十勝川西長いも」などのブランドを生かしながら、JA産の全農産物や加工品に添付していく。申請や審査を経れば、十勝産農産物を使った他社の加工品でも使用できる仕組みをつくる。国旗やロゴは現在、商標登録を特許庁に申請している。

統一ブランド戦略は、24JAでつくる「JAネットワーク十勝」（本部長・有塚利宣十勝地区農協組合長会会長）が昨年からの検討を進めてきた。記者会見には有塚本部長、各JAの組合長らが出席。有塚本部長は「これまでさまざまなブランドがあったが、消費者や大消費地に向け、まず十勝産であることが分かりやすくなる。安全・安心な十勝農業を広めていきたい」と述べた。

記者会見には、来賓として濱崎隆文十勝総合振興局長、米沢則寿帯広市長、高橋正夫十勝町村会長、高橋勝担帯広商工会議所会頭も出席。一般の約200人も参加し、十勝産食材を使った料理の試食会も行われた。

サツマイモで焼酎 6次化企画 JA豊頃町が試験醸造

2015年2月7日



JA豊頃町（山口良一組合長）は、町内で栽培・収穫したサツマイモを原料に使った本格焼酎を初めて醸造、商品化。今回は試験的な醸造のため一般向けに販売しないが、新年度に生産するサツマイモからも焼酎を造り、来年には発売する方針。

商品は、豊頃に掛けて名付けた「酔い頃」（720ミリリットル）＝写真。昨年に町内で

生産したサツマイモ品種「ムラサキマサリ」を使用。アルコール度数25度で、鹿児島県の焼酎メーカー、植園酒

造が醸造。ラベルに町の指定文化財「ハルニレの木」のイラストをあしらひ、4100本が出来上がった。

同JAでは、農業の6次化を図る取り組みを検討する中で、気候風土や土壌などの条件を考え合わせてサツマイモの栽培と焼酎醸造を企画。十勝農試や十勝農業改良普及センターの協力を得て昨年、町内の25㏍でサツマイモの中でも希少品種となっている「ムラサキマサリ」を作付け。積算温度の確保に苦労しつつも、昨年秋に約2.5㏍を収穫し鹿児島に輸送していた。

焼酎はふくよかな香りが特徴で、甘みがありながらもすっきりした後味に仕上がった。山口組合長は「自信を持って出せる商品。栽培面での課題はあるが一つずつ工夫を重ね、安定供給を果たしつつ生産を増やしていきたい」と話している。